

**著書紹介 高田智和,横山詔一 編『日本語文字
・表記の難しさとおもしろさ』**

著者	高田 智和,横山 詔一
雑誌名	国語研プロジェクトレビュー
巻	5
号	1
ページ	52-53
発行年	2014-06
URL	http://doi.org/10.15084/00000770

高田智和, 横山詔一 編

『日本語文字・表記の難しさとおもしろさ』

2014年3月 彩流社 A5判 264ページ 3,800円+税



高田 智和, 横山 詔一

1. 第4回 NINJAL フォーラム

本書は、2011年9月11日に開催した第4回 NINJAL フォーラム「日本語文字・表記の難しさとおもしろさ」の講演・報告をもとに、新たに執筆者を加えて一書にしたものです。

NINJAL フォーラムの開催趣旨は次の通りです。

世界の諸言語の中で、日本語の文字・表記は最も複雑だと言われている。使っている文字も、平仮名、片仮名、漢字と三種類を駆使しているのは、日本語だけである。このことは、和語には平仮名、漢語には漢字、外来語には片仮名のように、文字表記表現としての豊かさを示しているとともに、漢字の異体字や、送り仮名・仮名遣いなどの使い分けの原因ともなっており、学習や実務での不合理さとして言及される。本フォーラムでは、出版、放送、心理学、国語教育、日本語教育の専門家を迎えて、日本語文字・表記の難しさとおもしろさ、将来の展望について考える。

一冊にするにあたって、コーパスによる表記調査、文字使用の意識調査、電子メディアの文字・表記などに関する話題を加えました。

2. この本の構成

この本は3部立てで、合計12本の論考を収録しています。内容は次の通りです（NINJAL フォーラムの講演・報告を加筆したものには*を付けています）。

第一部 日本語と文字・表記

*漢字とどうつきあうか／阿辻哲次

*「自由度」こそ日本漢字の魅力／小駒勝美

*テレビと漢字／柴田実

「コーパス」でさぐる和語や漢語のカタカナ表記の実態／柏野和佳子

日本語ローマ字表記の基準と実状／エリク・ロング

第二部 現代社会と文字・表記

*文字の認知単位／横山詔一

使用場面からみた「略字・俗語」の衰退と個人文字化／鎌水兼貴

景観文字研究のこころみー「祇園」の経年変化を事例としてー／當山日出夫

電子メディアの文字・表記ー「超言文一致体」の現在（いま）と未来ー／三宅和子

第三部 教育と文字・表記

* 学校における表記の非日常性／棚橋尚子

日本語学習者の漢字字形の選好／高田智和

* 漢字の魅力にひそむエンドレス感と西洋世界の漢字学習「システム」／シュテファン・カイザー

日本語の文字・表記の裾野はとて広いので、本書で取り上げた分野や観点だけですべてを言い尽くせたわけではありません。個別のテーマでは外来語の表記や仮名遣い、送り仮名など、大きなテーマでは歴史的な変遷や他言語の文字・表記との比較・対照、印刷文化との関係などは、残念ながら本書では取り上げることができませんでした。またの機会にお届けできればと思います。

高田 智和 (たかだ・ともかず)

国立国語研究所理論・構造研究系准教授。博士（文学）（北海道大学）。国立国語研究所研究開発部門研究員を経て2009年9月より現職。

主な著書・論文：『例解辞典』（新版監修，ぎょうせい，2010），『電子化辞書とねじれの漢字』（『計量国語学』23(5)，2002），『漢字処理と『大字典』（『訓点語と訓点資料』109，2002），『漢字字体規範データベース』（共著，『日本語の研究』1(4)，2005）。

受賞：標準化貢献賞（日本規格協会，2007），標準化貢献賞（情報処理学会情報規格調査会，2010）。

社会活動：日本語学会電子情報委員長，計量国語学会理事，情報処理学会人文科学とコンピュータ研究会運営委員。

横山 詔一 (よこやま・しょういち)

国立国語研究所理論・構造研究系教授。博士（心理学）（筑波大学）。上越教育大学助手，国立国語研究所領域長，同研究所グループ長を経て，2009年10月より現職。

主な著書・論文：『表記と記憶（心理学モノグラフNo.26）』（日本心理学会，1997），『現代日本の異体字ー漢字環境学序説』（共著，三省堂，2003），『言語の生涯習得モデルによる共通語化予測』（共著，『日本語の研究』6(2)，2010），『日本語文字・表記の難しさとおもしろさ』（共編，彩流社，2014），A logistic regression model of variant preference in Japanese kanji：An integration of mere exposure effect and the generalized matching law（with Yukiko Wada，*Glottometrics* 12，2006）。

受賞：日本教育工学会論文賞（日本教育工学会，1997），徳川宗賢賞（優秀賞）（社会言語科学会，2010）。

社会活動：社会言語科学会理事，社会言語科学会広報委員会委員長，計量国語学会理事，日本心理学会実習教科書作成委員会副委員長。